

経営比較分析表（令和2年度決算）

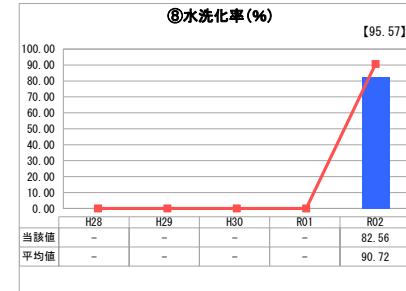
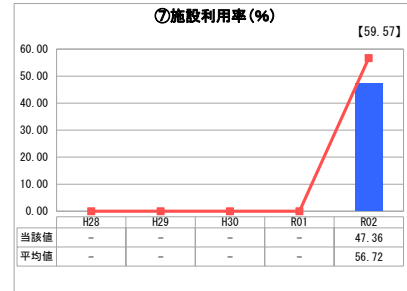
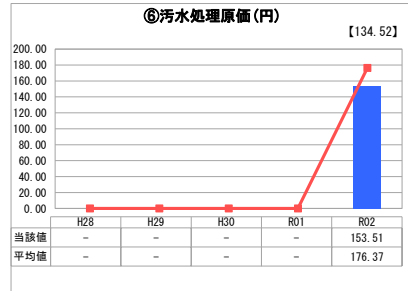
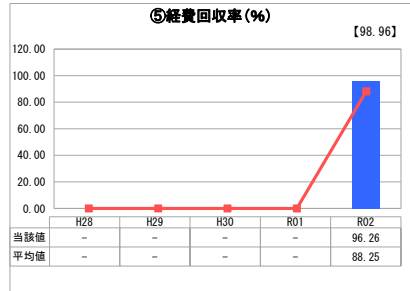
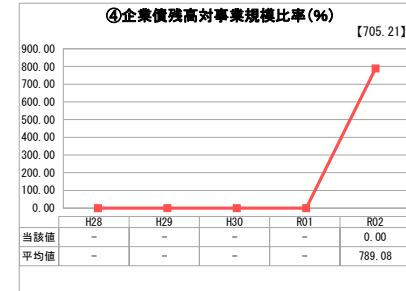
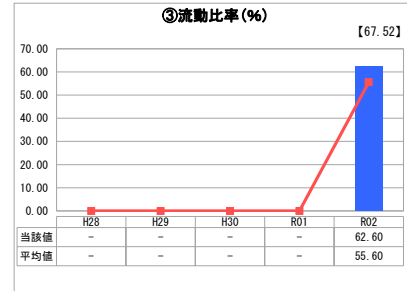
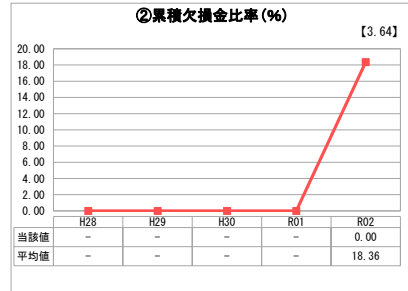
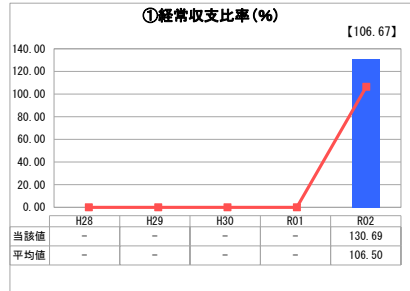
栃木県 矢板市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	61.63	38.80	78.39	2,700

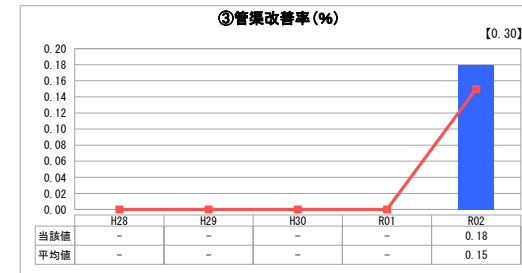
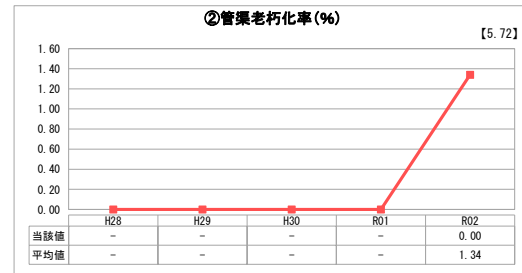
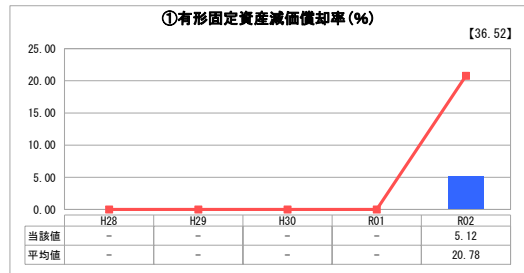
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
31,719	170.46	186.08
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
12,296	4.83	2,545.76

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、類似団体平均値と比較するとかなり高いため、更なる義務的経費削減を図る。
 ③流動比率は類似団体平均よりは高いが、決して高い数字と言えないため、企業債縮減に努め、比率が向上に努める。
 ⑥汚水処理原価は、類似団体平均値と比較すると低いものとなっているが、接続率はまだ高いと言えず、今後老朽化による維持管理費の増大が見込まれることから、水洗化率向上に向けた施策が必要である。
 ⑦施設の利用率は、全国平均及び類似団体と比較し同程度であるが、今後も接続率の向上と処理区域の拡大に努める必要がある。
 ⑧水洗化率は、全国平均及び類似団体平均と比較して低いものとなっているため、今後も普及啓発活動を推進する必要がある。

2. 老朽化の状況について

水処理センターは、平成3年度の供用開始から30年が経過し、機器及び建物等の老朽化が進んでいる。策定されたストックマネジメント計画に基づいた改築更新を図っていく予定である。
 管渠においても、令和10年度ごろに耐用年数を順次迎えるため、計画的な更新が必要である。

全体総括

今後も投資的事業である「下水道管渠築造工事」「水処理センター建設事業(更新)」を計画的に進めていくため、より健全な経営に努めていかなくてはならない。
 令和3年度からは、使用料改定により財源増を見込んだが、それでも運転資金が少なく運営は厳しいため、経営戦略の見直し等を行い、更なる経費の削減、接続者の増加等により財源の確保に努めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。